

太陽のこども！『ワクいく』計画

現代社会は、成果を求めすぎていろんな発想や自由度を狭めてしまっている。

本提案の『ワクいく』計画ではそれを緩め

「失敗してもいいから、やってみる」という『フェニックスマインド』を目指す。

手のひらで生み出されるものから都市スケールのワークショップまで

さまざまな答えなき問いに、子どもたちと挑戦し続ける。

『ワクいく』計画のワークショップでの、失敗と経験による学びは、

レジリエントな都市形成とレジリエントな人材育成につながる。

ワークショップによって、ひとりひとりに育まれた『フェニックスマインド』は、
宮崎市というクニを再興し、激変する時代のなかで彩光を放つ太陽のクニへと導く。



What's?

“ワクいく”

楽しくワクワクするワークショップ (WS) で、まち、コミュニティ、個人それぞれがインタラクティブに関わりながら育成されるもの。

身近にすぐに参加できるものから都市計画レベルまで、その全てに大人と子供の市民が関われる。

大人も子供も育成する

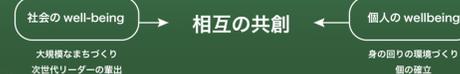
自身の手によって、環境が変化することを体験し、物事を捉える「目(五感)」を養い、実行する「術」を鍛える。フィールドのうまみを見つけ、自分軸な人生をプレイする。自分フィールドを開拓する過程で、他人と交わり合い、覚醒した個による動的なエリアが波紋のように広がっていく。

宮崎市全体が活性化し、市出身の人々が全国的にブランド化される。(ひむかの国でうまれた太陽のこども)

潜在能力を行使する

自身の well-being を追求する過程で、一人一人が「ワクいく」を通してまちの well-being に携わる。個人の身近な問題の解決と地方都市活性化は延長線上にあり、双方からアプローチすることが近道である。「大規模なまちづくり / 次世代リーダーの輩出」と「詳細なまちづくり / 個の確立」が両立され、長期的な結果として地方都市を含む日本全体が再興する。

関連するキーワード：人口、高齢化、民主主義、地域再生、幸福度、居場所



宮崎市の概要



地域資源
歴史 (古事記の神話)
文化 (神楽)
自然 (海・山・川)
植生・生態系
気候風土 (風・湿度・雨)
農業・商業 (豊み風景)

宮崎市は、日向灘に臨む宮崎県の中央部にあり、青い海と空、四季折々の花や緑に彩られ、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた都市で、安全・安心で良質な海の幸・山の幸など、食材が大変豊富である。さらに、古事記など神話の舞台となった名所や旧跡地なども数多く存在している。それらの土地の潜在力が誘い起こされることを目指す。地域の魅力に気づき、市民の意見・アイデアの入った風景をつくる。

風景の育成

landscape × workshop

日本一、子育てが楽しいまちを目指して

地域みんなで子供を育てる・WS が(あずかり)の場 support

宮崎には気候や物価など、子育てしやすい環境条件が揃っている。ここに、地域の人が子育てをサポートするために WS が作用する。

Warm 快晴日数 2位 (1981年～2019年) 20年間の年平均日数 出典: 気象庁観測データ	Child いっしょに遊ぶ場所の充実度ランキング 2位 (2013年調査) 2013年調査対象は、全国の自治体。この調査は、子育て世代の保護者や関係者へのアンケート調査。調査対象は、子育て世代の保護者や関係者へのアンケート調査。調査対象は、子育て世代の保護者や関係者へのアンケート調査。
Distance 通勤・通学にかかる所要時間(平日) 1 平均19分 出典: 国土交通省「平成23年度国土交通白書」	Price 家賃の平均値 2位 出典: 国土交通省「平成23年度国土交通白書」

「ワクいく」フィールドとしての阿波岐原森林公園

コンパクトなまちだからこそ、各々の WS が関係性をもてる。WS によって市街地の活性化や、駅前・商店街の活性化、各種都市拠点と物理的・ソフト的な運動が期待できる。

本提案は、「観光・リゾート+WS 拠点」としての阿波岐原森林公園の新たな立ち位置を明確にすることで、「多拠点ネットワーク型コンパクトシティ」が形成される経年的プロセスを提案する。

学びのフィールドが近いことで、こども主体の楽しい(ワクワクする)アクティビティ・レジャー・憩いの場としての WS の拠点化を目指す。

宮崎市の人材ブランド化

宮崎市民が確立されたスキルを持ち、国内で一置かれる存在となる

宮崎市民は、ワークショップという経験によって育まれた精神力やむそ(夢想・無双)力などの確立されたスキルを持つことができる。それらの確立されたスキルは、宮崎市の人材に対する信頼感・ポジティブなイメージを醸出し、宮崎市の人材は「ブランド化」され、国内で一置かれる存在となっていく。

内面・自己の育成=クニ・国づくり



well-being

「ワクいく」いきいき暮らし

ワークショップを再編成して、宮崎市民の意識改革・スキル体得を目指す。WS などの市民の営みは象徴性を含まない、地道で具体的なボトムアップの草の根活動であるが、それらが集積するステップは長期的な取り組みの結果として、国を再興させる神話となっていく。各人が開拓・デザインしたパーソナルエリアがまちの一部となることで、自身の価値を認識することができることで「ワクいく」「いきいき」な暮らしに繋がる。その暮らしによってまちに対する愛着が育成され、提案力を身につけた子供たちは、21世紀の牽引者となりうる。

他人軸
TOP DOWN
 BOTTOM UP
フォーキャスト
逆期ビジョン
幸福の基準
CONVENIENCE
 RESTRICTION
便利から、不自由を楽しむ時代に。

そうぞうの場「道の駅」ネットワーク図

創造と想像、モノとコト

激変する時代のなかで、新しい価値創造やイノベーションを生み出す人材は重要である。価値創造やイノベーションは、個人の経験に根差す活動であるため、価値創造教育も個人の経験に基礎をおき、それを育成する社会に受容していかなければならない。みやざきっ子の経験の質を高め、学生同士や社会、様々な人との間で価値の共創が起こるような「ワクいく」というシステム、「Fab Lab」という場でのモノづくり、そして「ワークショップ」というコトを提案する。みやざきっ子に様々な経験と出会い、ワクワクとした想像と創造を提供する。

大人だってジャンプできる。

クリエイティブ職の方との出会いの場となる。クリエイティブ職の方との繋がりがだけでなく、アイデアが欲しい、作りたモノやコトはあるのに作り方や始め方が分からない、そんな人たちが様々な企業が自然と集まれる駆け込み寺のような場所となる。駆け込んで、様々な人や価値観、思考や経験と出会うことで、大人だってジャンプできる。

学生だって立ち向かえる。

学生たちに、自分たちは異なる考え方が生きていることを生身で経験してもらいたい。大学や高校教育で、高度な知識や専門性を身につける過程で、学生たちの発想には偏りが生まれている。「真分野の人と一緒に WS をやることによって、その偏りに気づく」。この経験をすることで、学生は発想の次元を自由にしておくことができる。また、実際に社会に出て「何が課題なのか」「何を解決しなければいけないのか」を考える経験を増やしていくことで「高度汎用性」を育成する。

小学生だって世界に貢献できる。

アドラー心理学の「共同体感覚」

「共同体感覚」を持つことが子どもたちが自立していく基礎になる。「共同体感覚」は他者を仲間とみなし、そこに自分の居場所があると意識されること。

What's?

『Fab Lab』

「Fab Lab (fabrication laboratory)」とは、「ほぼあらゆるもの(almost anything)」をつくることを目標とした、個人による自由なモノづくりの可能性を広げるための、デジタル工作工房とそのネットワークのこと。

『ワクいく課』

「ワクいく課」とは、ワクいく計画を促進する新たな行政の組織。市役所ではなく、新設する「道の駅」にオフィスを持つことで、市民とのフラットな関係を築いていく。

今までのワークショップとはここが違う!

『Lab メン』という精鋭隊

Lab メンメンバーの略

What's? 『Lab メン』

Lab メンの構成

①紹介者(仲介者)
多様な人材や WS をつなぐ、紹介者として役割。専門分野が異なる人や WS と出会うことは難しい。特に「Lab メン」が紹介者として入ることによって、異なるセクターの共創型人材が出会い、イノベーションが起きる。「子ども Lab メン」は自身が所属する学校、地域の子どもたちへの紹介者となる。

②技術スタッフ
Fab Lab にある多様な造形加工設備・機材の指導者、サポートとしての役割。「子ども Lab メン」はライセンストレーニングを受講し、危険度の低い造形加工設備・機材の指導者サポートを行う。

What's? 『ビジョニスト』『X デザイナー』

「ビジョニスト」とは、クリエイティブ分野のバイオフィニアのことを指す。理想の未来のビジョンを提示し、問いを提示する人。コトづくりのスペシャリスト。

「X デザイナー」とは分野に囚われない様々な「X」のデザインを手がける人を指す。求められているビジョンの答えを提示する人。モノづくりのスペシャリスト。

フェーズ	3	4	5	6	夏キャンプ
phase1	START	START	START	START	START
phase2	START	START	START	START	START

※本計画は、宮崎県「令和5年度地域創生推進事業」(「ワクいく」)の成果として作成されたものです。©2023 Miyazaki City

「ワクいく」まちづくり 構想してみました！

「阿波岐原森林公園」 ～市民の森キックオフミーティング～

第1回「地域の問題点を探してみよう」

阿波岐原森林公園 市民の森の大屋根の下で、行政の方を交えて「ワクいく」の土壌作りワークショップを行う。

2023

2023.05「議事録」

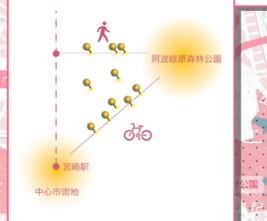
阿波岐原森林公園での問題として、風に向かって行っているワークショップが高として終わってしまっている。面としての広がりまで至っていないのが挙げられた。解決策として、「WSの拠点としての道の駅」「ワークショップの多様な活用性のための Fab Lab の導入」、「イペーパープロジェクトや並木をつくることで既成の遊歩道と新たな遊歩道作り」などが提案された。道の駅の敷地決定には、一ツ葉 PA が併せられ同時に、津波避難所としての機能が行われた。さらに、MTG 内で出たキーワードとして、「サイン整備」「南海トラフ」「歩道橋」「河川津波」「松林保護」「整備」「六次産業」「農業」「加工場」などがあげられた。

都市の将来像

- ・交通アクセス向上による他エリア、日本各地との接続
- 他拠点ネットワーク型コンパクトシティ形成にあたり、各拠点同士は「強い早い」道づくりを行う。それによる経済効率の上昇、安心安全な暮らしの確保、地域の発展・地域間交流の促進、が期待される。
- エリア内は、圧倒的な車社会から脱却し、公共交通機関・自転車・徒歩でつながる、動脈と毛细血管のような他拠点ネットワークを構成する。

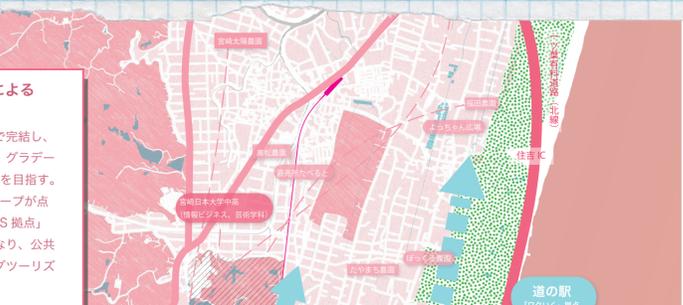
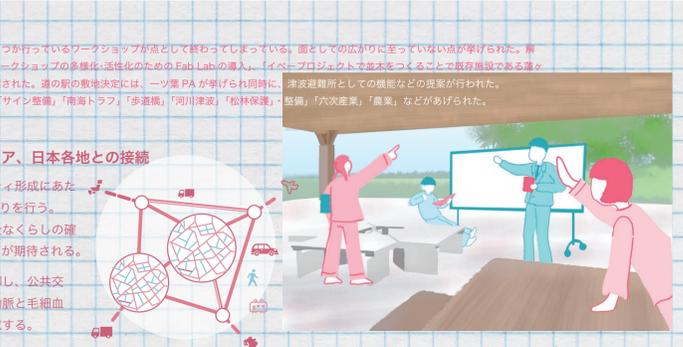
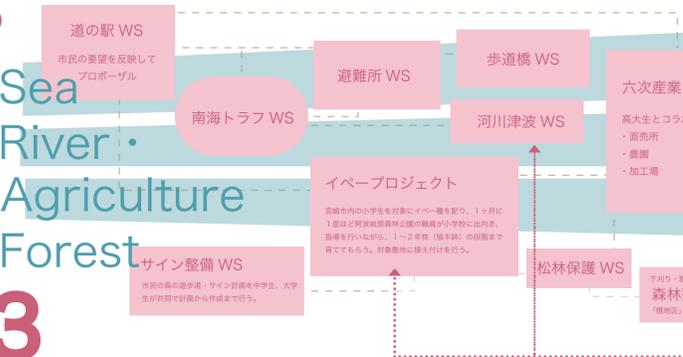
・ウォーカブルなまちづくりによる宮崎の「色」を明瞭化・創出

中心市街地や森林公園が領域内のみで完結し、周辺環境と境界を隔てるのではなく、グラデーション的にひろがる、歩いて楽しい街を目指す。「ワクいく」で演出されたランドスケープが点在することで、「観光・リゾート+WS 拠点」と中心市街地の間がウォーカブルになり、公共交通機関の利用者増加、ウォーキングツーリズムのエリア拡大などが期待できる。



宮崎市の現状

- ・中心市街地の空洞化が顕著である。2005 年にイオンモール宮崎が開業したことで中心市街地における歩行者通行量の減少や商業売上げの減少など、大きな影響を及ぼしている。それにあたり、2020 年には、ミュプラザ宮崎が中心市街地に開業するなど、求心力を取り戻す為の計画が行われている。



2028

「2023~2028 成果発表会」 @道の駅

「イペーパープロジェクト」 小さな手が再編する都市骨格

みやざき公園協会の取り組みである「イペーパープロジェクト」を、宮崎市内の小学生の授業に組み込むことで宮崎市内にイペーパー並木が立ち現れていく。



1~2年株 3~4年株 5~6年株 並木完成！

小学低学年 鉢植え 小学中学年 植え付け 小学高学年 剪定 小学校卒業

みやざき公園協会では、「イペーパー」の宮崎のまちとして全国にPRするため「イペーパープロジェクト」を進めている。イペーパーは宮崎の気候でも育ちやすく、平和・幸せの色でもあり、黄色い花を咲かせる。小学校の6年間を使い、イペーパーの栽培学習を行いながら、自分たちの育てるイペーパーを宮崎市内のどこに植えるのか様々な調査と議論を行うことで宮崎市についての知見を子どもたちが深めていく。さらに、みやざき公園協会や行政がバックアップやフォローに回ることで、小学生の社会学習や仕事体験も兼ねる。子どもたちの創り上げた「イペーパー並木」が宮崎市の新たな都市骨格となる。



「河川津波ワークショップ」 WSの積み重ねが 子どもの命を守る

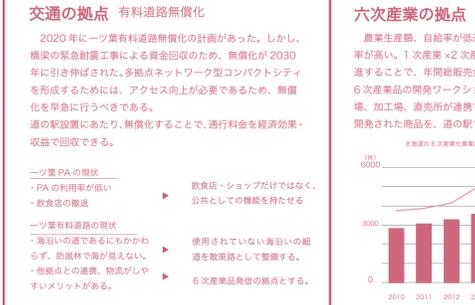
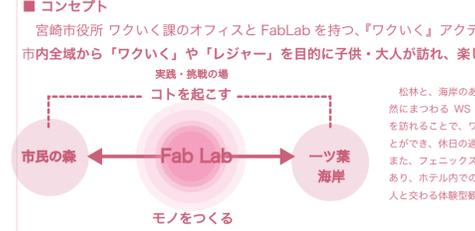


（WS例）テスラバルブの原理の応用実験

1 方向には流体がなめらかに流れるが、逆方向に流そうとすると大きな抵抗が生じるテスラバルブの原理を実空間に応用することで河川津波を抑制できないだろうか。

東日本大震災で沿岸部に甚大な被害をもたらした津波は、河口から遠く離れた内陸部でも猛威を振るった。それは、川を越えた津波、「河川津波」が原因であった。この「河川津波」は、南海トラフ巨大地震でも、広い範囲で被害をもたらすと想定されている。津波対策として、政府、自治体、地域において様々な取り組みが行われているが、津波から自らの身を守る基本は、自助努力である。津波から自らの命を守るためには一人一人、どのように行動すべきであるか。子どもたちが専門家や大学生と津波対策について学びながら、意見を出し、命を守るために、今できる最大の備えについて考えていく。

「ワクいく拠点・道の駅設計プロジェクト」



「ワクいく」まちづくり

一ツ葉海岸の特長である、美しい朝日、満点の星空、ひろがる砂浜を体感することができる。スラブの有機的な曲線が海や空を切り取ることで風景をより演出する。フェニックス、太陽、月がアイコンのように強調され、海を背に向ければ広大な松林が広がっており、夕焼けの彩に照らされた松林のシルエットが幻想的に浮かび上がる。時間と刻々と移り変わる景色があり、ラボは居場所となることで、何度でも訪れたい、「ワクいく」いきたい。道の駅となる。海側からのアプローチや、松林側からのアプローチ、どの角度からでも、一步一步移り変わる切り取られた風景は、ここでしか見ることのできないものである。



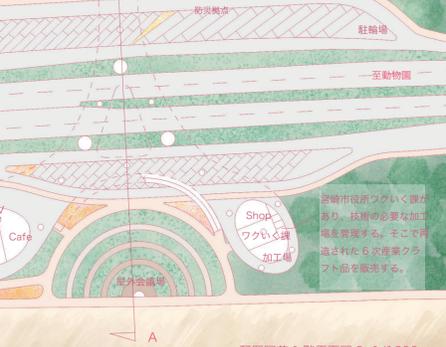
2050

レジリエントな都市

2050年には、地域の潜在能力でその地域ならではの環境を保全・創出し、異なる場所で行われる大小さまざまなWSの取り組みが波紋のように交わることで、ワクイクとした新たな相乗効果を生むことが可能になる。その予期せざるWS間の交わりが、持続可能な成長、幸福度、包括的成長を確保するために、新しい情況に適応し、自身を変革し、将来のショックやストレスに備える能力を持つレジリエントな都市の形成に繋がっていく。

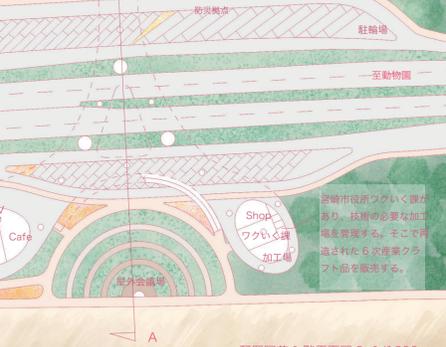


「天満橋プロジェクト」



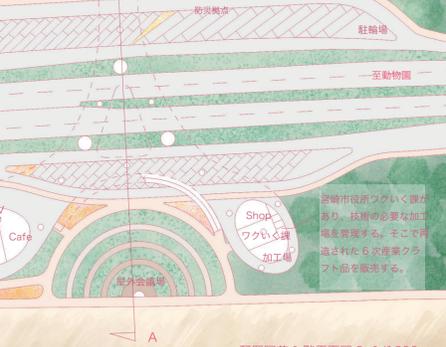
「空き地子ども農園プロジェクト」

「空き地子ども農園プロジェクト」



「栄町児童公園プロジェクト」

「栄町児童公園プロジェクト」



レジリエントな人材

レジリエントな人材

